鈴森会会報
発行所
千代田区神田岩本町
一番地　岩本町ビル内
鈴森内科事務局
電話　(3253) 7081
発行者　石川　喜一郎
編集発行人　斉藤、仲松

新しい治療の概念「NBM」について

治療のあり方については、色々の立場からの報告があるが、「EBM」はその代表的概念の一つである。すなわち「EBM」とはevidence based Medicineの略語であり、通常、診療の現場では「エビデンス」と呼ばれ、良く使用されている表現方法である。しかし、この「エビデンス」というのは「証拠」という意味で使われていて、どちらかと言えば、臨床の現場に余り関与していない疫学専門家（統計専門家）が考えた概念であり、「文献検索を中心とした批判的吟味」が重要視されている。最近は、臨床現場の医師の間で評価が分かれているのが現状である。

糖尿病診療の現場では、「エンパワーメント」とか「NBM（narrative - based Medicine）」の概念が注目されていて、すでに「エンパワーメント」については当会報やハガキ（年賀状等）でも触れており、その目的とする所は、患者さんの治療への意欲を引き出し、参加させることにあると考えている。すなわち「EBM」は診療側の考え方のウエイトが大きく、個々の患者さんのニーズに答えようとする側面があり、それを補完する意味で「エンパワーメント」の概念が考えられ、重要になってきている。すなわち、患者さんの持っている内面的パワーである自ら持つ潜在能力の問題点を引き出し、治療者と一体となって努力することができると思われる。一方、「NBM」も同様の考え方であるが「Narrative」の意味は〝物語り〟ということであり、経験や療養に対する考え方や治療の実際に対する姿勢を自らの言葉で表現し話すことによって、治癒を促進し、さらにその体験を同じ病気で悩んでいる人々にも教えていくことでもある。

当クリニックではすでに以前からブロック会（鈴森会の行事の一つ）の中で実践しており、個対個すなわち医師対患者にとどまらず、個対多数の患者というように自らの体験（良い体験、悪い体験）、結果（良い結果、悪い結果）をありのままに物語ってもらい、皆さんの治療の今後に役立ってもらうようにしている。また、広く患者会（鈴森会）、NPO法人を通じて情報を発信していくことが重要であるということを痛感している。診療側のEBM（根拠にもとづく医療）、患者側のエンパワーメント（患者の潜在能力を引き出し自己管理する）と両者の間の関係をより良くするNBM（物語りによる医療）を取り入れて、今後の糖尿病の治療をすすめていきたいと思います。そのためにも、医師（当クリニックでいう、かかりつけ医）、看護師をはじめとしたコメディカルと患者さんとの連携をより密接にしていくことがより重要になってくると思います。

（重本　幸子）

お知らせ

○秋の旅行会の日程が決定しました。日時は十月十八日・十九日の一泊二日です。今回も重本先生・安藤先生・杉山先生と職員も同行致します。皆様のご参加をお待ちしております。尚、詳細につきましては、窓口にて対応しております。

☆歩く会は、九月二十八日です。場所は向島百花園と七福神めぐりです。詳細は窓口に置いてあります。奮ってご参加下さい。

鈴森会会長

第四十三回鈴森会定時総会及び第四回NPO法人第四百七十八回糖尿病教室開催について

野沢　秀二副会長

今年の鈴森会総会は四月十九日、例年通り行われました。総会も回を重ねて第四十三回となり、合わせて第四回NPO法人、第四百七十八回糖尿病教室も開催されました。当日会員の皆様には大変お忙しいなか、多数出席され、総会に対する関心の深さをあらわしていると思います。総会は定刻二時には始まり、小山副会長の司会で、式次第が行われました。開会のことば（野沢）、石川会長の挨拶、物故会員に対する黙祷、重本先生のご挨拶があり、石川会長の議長のもと、議事に入りました。

事業経過報告（野沢）、決算報告（山本理事）、監査報告（北村監事）、事業計画案（大西常任理事）、予算案（山本理事）、役員改選と五号議案までの審議が行われましたが、会員のご協力により、満場一致ですべての議案が承認されました。

引き続き表彰式が行われ司会佐竹常任理事により進行、表彰は十年通院者、二十年通院者、四十年通院者、特別賞及び職員、名誉会員の代表者が、重本先生と、石川会長より賞を受けられました。長い間療養をし、大変な努力で長寿を保たれ、又会のために大変なお骨折りをいただいた方々に心から敬意と感謝を申し上げます。つづいて各受賞者代表の謝辞（内容は同時掲載しています。）があり、天野常任理事の閉会の言葉で第一部の議事はすべて終了致しました。

第二部は「三時～五時まで」は毎回の定時総会の中で会員の皆さんに大変関心の深い講演会が行われました。最初に「教養講演」として弁護士西川三男先生のテーマ「成年後見制度について～財産管理から生活支援まで高齢者の社会的存在意義について」重本先生より西川先生のご紹介があり、講演がなされました。私達は加齢になるに従って、判断能力が低下し、認痴症も問題であり、早い時期から財産管理等どうすればよいのか、生活周囲の世話など整理し、相談する必要があると思われます。しかし、現状では積極的に取り組む事が、仲々出来ない現状ではないでしょうか。しかし、いずれそのような時期が来ると思われるので準備が必要でしょう。その場合のために、関心をもって、今から知る事は大変大事な事であろうかと思います。法的な難しい文言等多くありますが、これを機会に、自分なりの知識を得たことで、大変有意義な講演であったと思います。

学術会議

次は「学術講演」で重本先生の講演がありました。テーマは「メタボ健診と高齢者医療制度について」であります。平成二十年四月よりメタボリックシンドロームに着目した「特定健康診断」「特定保健指導」が四〇歳～七四歳の国民すべてに義務づけられました。内蔵脂肪の蓄積により高血圧、糖尿病、高脂血症などを引き起す状態の事をいい、健診受診とともに生活習慣の改善を積極的にするように具体的に話されました。何よりも今、一番問題になっているのは高齢者の医療制度である。内容は高齢者にとって誠に不条理で（年齢で区別する医療）あり、分かりにくく、不安な内容である。しかし、先生からは、現在当クリニックに通院している方々には、決して心配する事なく今迄通り通院できるようにするので、しっかり治療に専念して下さいとの力強いお話しを聞き、大変安心し、有意義な講演であったと思います。第二部の「教養」と「学術・講演」は午後五時少し前に終了し、第三部の懇親会に移りました。少し休憩後、佐竹常任理事の司会で、進行され、古久澤常任理事の乾杯ではじまり、途中何時も変わらぬご出席をいただいている安藤先生、杉山先生よりご祝辞をいただき、楽しく会も進み、予定通り午後六時には高水理事による中〆めで第四十三回鈴森会定時総会は、とどこうりなく終了する事が出来ました。会員皆々様のご協力と、クリニック職員その他関係各位のご協力に心から感謝申し上げます

Dedicated to Man's Fight against Disease and Pain

水無瀬総合研究所

“病気と苦痛に対する人間の戦いのために„

我社の創業は西暦1717年であり、280年余という伝統の歴史を持っております。
この伝統の上に人間の病気と苦痛に挑戦し、健康な生活に寄与する使命を誇りとしています。

小野薬品工業株式会社
〒541-8526 大阪市中央区道修町2丁目1番5号
020401

いい肌つづけ。
ヒューマン・ヘルスケア hhc エーザイ

口内炎への効き目を、肌あれにも。
チョコラBBプラス® 医薬品
効能・効果：肌あれ・口内炎の緩和、肉体疲労時のビタミンB2補給など。
使用上の注意をよく読んで正しくお使いください。